

リアルタイム現地情報

銚田地域イチゴ環境制御技術研修会

12月8日、普及センター主催で令和4年度いばらきの儲かる園芸経営体モデル育成事業で設置したいちごの実証ほにおいて、銚田地域イチゴ環境制御技術研修会を開催しました。

普及センターより、本日の研修会が経営体の所得向上を目指す県の総合計画推進プロジェクトの一環であることや実証ほの設置内容、調査結果を説明しました。実証ほは、ハウス内の環境測定データにより自動で換気と炭酸ガス施用を行う環境制御盤(アルスプラウト)を設置した試験区と、手動換気とカンプロでの日中炭酸ガス施用を行う慣行区を比較し、生育調査の結果、両区ともに順調な生育であり、自動換気でも適切な環境を保つことができていることを説明しました。

実証ほ設置生産者より、以前使用していた自動換気装置は、側窓の間隔の設定が等間隔だったが、アルスプラウトでの管理は2cm、6cm、10cm、20cm、30cm、40cmの様にハウス内の温度を細かく調節できるように設定できて、使い易いと説明がありました。緯度と経度を入れれば、日の出時刻、日の入り時刻に合わせて設定できることも、生産者目線で使い易いと説明がありました。

サカタのタネや大島種苗からは、アルスプラウトには様々なセンサーと連動が可能で、生産者の希望に応じた環境制御ができると話がありました。その場合は命令系統数が限られているので、自分の使っている設備の確認が必要であるとあわせて説明がありました。

農業総合センターからは、温暖化によりイチゴ定植後の気温が高くなる中で、安定した一次腋果房の形成を促進する技術であるクラウン冷却の説明がありました。

意見交換では、参加した生産者から、自分のほ場で適用できるかどうか等の質問が上がる等、以前産地に導入された自動換気装置より性能が向上していることを認識してもらえたようで、意義のある研修会となりました。

銚田地域農業改良普及センター